

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 倉敷化工株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒712-8555 岡山県倉敷市連島町矢柄四の町4630	
本票作成	部署名： 監査室 ISO事務局				
主たる業種	分類コード	19	業種名： ゴム製品製造業		
事業の概要	自動車用ゴム部品、産業用防振・防音・緩衝機器の製造販売 従業員757名				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	本社工場		岡山県倉敷市連島町矢柄四の町4630	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 24 年度)	(平成 26 )年度排出量	目標年度(平成 29 年度)
	12,802 t CO <sub>2</sub>	12,797 t CO <sub>2</sub>	12,802 t CO <sub>2</sub>
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 26 )年度排出量
	①	本社工場	12,797 t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>

削減目標の達成状況	計画期間： 平成 25 年度 ～ 平成 29 年度 ( 5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	( 26 ) 年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 3.5 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 ゴム製造業なので、製造工程に原材料として使用する練りゴム使用量を用いた。	原単位当たり排出量		
		基準年度	( 26 ) 年度	目標年度
		4.071 t CO <sub>2</sub> /( t )	4.213 t CO <sub>2</sub> /( t )	3.867 t CO <sub>2</sub> /( t )

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 26 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

練りゴム使用量(エネルギーの使用と密接な関係を持つ値)とは直接関係のない、工場を対象とした耐震工事、新部品立ち上げによる新規設備の導入、海外新規工場向け設備の組み立て試運転等の為、使用電力が増加して、結果的に基準年度に比べ原単位の改善が出来ませんでした。しかし、前年度に比べたら改善されています。

**【推進体制】**

- ・省エネ法に基づくエネルギー統括者を中心としたエネルギー監視体制のもと、手順書通りに進めてゆく。
- ・ISO14001に基づき、社長をトップとした環境管理体制の下、全社目的目標に省エネルギーを前面に押し出し環境改善をPDCAを回しながら推進して行く。

**【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】**

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
本社工場	<p>(2014年度実施分)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生産性向上活動により、1個のものの作りの時間短縮を行って、省エネを行った。</li> <li>2. 室内照明、工場照明のLED化を行った。</li> <li>3. 金型、蒸気配管保温カバー設置による省エネを行った。</li> <li>4. 工場の蛍光灯、水銀照明からLED照明に変更により省エネを行った。</li> <li>5. 10分、昼休み休憩時間消灯による省エネを行った。</li> <li>6. 古いエアコンを省エネタイプに更新した。</li> <li>7. 試験機用クーリングタワーのポンプインバーター制御条件の最適化による消費電力削減効果をアップした。</li> <li>8. ゴム加硫時間短縮による省エネを行った。</li> <li>9. A重油使用小型貫流ボイラーを都市ガス使用ガス焚きボイラーに交換し省エネを行った。</li> <li>10. 高効率変圧器への変換による省エネを行った。</li> <li>11. 省エネ設計を反映した新規設備を導入した。</li> <li>12. 大規模ソーラーパネルを導入した。</li> </ol> <p>(今後実施予定分)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 残っている貫流式ボイラー（A重油使用）から、都市ガス使用ボイラーに変更する。</li> <li>2. 省エネ設計を反映した新規設備を導入する。</li> <li>3. 各動力トランスを高効率のものに更新する。</li> <li>4. 設備、試験機モーターのインバーター化を進める。</li> <li>5. 工場の耐震化工事と並行して、工場の保温対策をして熱効率を上げる。</li> </ol>

**【森林保全等吸収源対策への取組】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【その他特記事項】**

冷暖房使用電力削減のため、全社でクールビズ、ウォームビズに取り組んでいる。毎年、ライトダウンキャンペーンに参加している。